

Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No.58

中国軍管区司令部および第59軍司令部の誕生の経緯

昭和20年(1945)6月から広島城内に存在していた中国軍管区司令部および第59軍司令部は、すぐに終戦を迎えたため、その関係資料も少なく、正しく理解されていない部分も多いです。今回は、軍組織についても少し解説しつつ、そもそも中国軍管区司令部および第59軍司令部とはどんな組織だったのかお話してみたいと思います。



第5師団司令部1号庁舎 大正末頃《広島市郷土資料館所蔵》

◆陸軍の組織

明治4年(1871)、明治政府は旧幕藩体制から脱却し、中央集権国家を確立させるため、廃藩置県を断行します。同時に、これに不満を持つ士族に対抗し統制するために軍隊を作り、東京・大阪・東北・鎮西(鎮西とは九州を指します)と4つの鎮台を設置します。この年、広島城内には鎮西鎮台第一分営が置かれます。

明治6年(1873)には、名古屋鎮台と広島鎮台が追加され、6軍管区6鎮台制となり、佐賀の乱、神風連の乱、秋月の乱、萩の乱といった士族の反乱が起こる度、各鎮台が鎮圧に出動しました。

明治10年(1877)、最大の士族の反乱と言われる西南戦争が起こります。これに対して明治政府は威信をかけて、各鎮台を総動員して鎮圧しました。これをもって、明治初頭から続いた士族の反乱は

終焉を迎えます。明治政府内では、国内の治安維持を大きな目的として整備した軍事力を今後どうすべきか論議され、最終的には軍備を拡張し、外征向き(海外で戦える軍隊)に再編されることになり、鎮台制は廃止となり師団制となります。広島城内にあった広島鎮台も第5師団(担任地域は広島、山口、島根)となりました。

ちょっと難しい言い方ですが、師団は国内における最大の戦略単位と言われます。師団とは、歩兵連隊4つを基幹として砲兵連隊、騎兵連隊、工兵連隊、輜重連隊(輜重とは物資輸送を専門に行う部隊です)、さらに陸軍病院や経理などの部署も含み、その集団(単位)1つで、陣地構築から戦闘、さらに自前で物資補給まで行えるように整備された軍事組織です。このように歩兵連隊4つを基幹として編成された師団を4単位師団と呼びます。昭和に入り、日中戦争が始まると多くの師団が必要とされ、歩兵連隊3つで編成する3単位師団も誕生します。また、歩兵連隊2つを基本に編成されるものを旅団と呼びました。

平時において、4単位師団は1万人弱の規模ですが、戦時になれば人員は大巾に増員されます。戦時に師団が動員され外地に赴くと、当然師団を指揮する師団司令部も一緒に外地に移り、内地には新たに留守師団が作られます。平時には、師団司令部で戦時の際の兵員の動員計画(召集する予備役軍人^(*)の名簿の作成)や装備や食糧の調達など、さまざまな計画を立てますが、戦地に師団が動員されると師団司令部も戦地に移動するため、国内の師団司令部のあった場所には留守師団司令部が置かれ、留守師団司令部が動員計画に基づき兵士の補充や教育などの軍政を行います。

広島城内の第5師団司令部も動員命令が発令され、戦地に赴くと元の師団司令部の庁舎に留守第5師団司令部が置かれます。昭和15年(1940)8月1日からは、留守第5師団司令部は通称号として“広島”を用いることとなり、“広島師団司令部”の通称号で呼ばれることもありました。(名称変更ではないので、正式な称号はあくまで留守第5師団司令部のままです)

昭和20年2月11日、陸軍管区表の改定により、鳥取と岡山の各部隊が留守第5師団司令部の隷

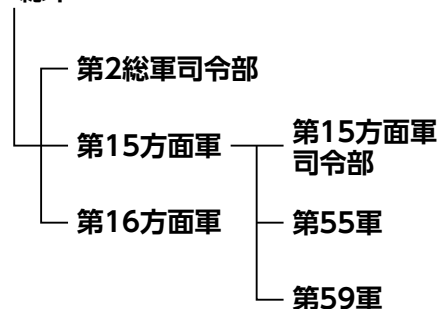
下に入り^(*)、この時点で担任地域が中国5県に広がります。また、4月1日からは留守第5師団司令部の称号を改称して、広島師管区司令部と名乗ることになりました。

◆中国軍管区司令部・第59軍司令部の誕生

サイパン島の陥落後、本土防衛強化が真剣に検討され、本土決戦も現実味を帯びてきた昭和20年1月21日に「帝国陸海軍作戦計画大綱」が策定されます。3月中旬には「決号作戦^(*)準備要綱案」が作られ、大きな軍組織の改革が行われます。先に国内における最大の戦略単位が“師団”と書きましたが、外地(戦地)では大きな作戦をするために、複数の“師団”を束ねる“軍”が置かれたり、さらに複数の“軍”を束ねる“方面軍”、さらに複数の“方面軍”を配下にもつ“総軍”が置かれる場合もありました。

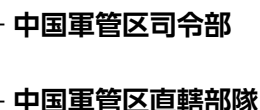
作 戦

大本営 — 第2総軍



軍 政

大本営 — 中国軍管区



本土決戦では国内が戦地となることを想定し、大本営を頂点として、日本列島を鈴鹿山脈で2分し、東に第1総軍、西に第2総軍を置きます。第2総軍司令部は、広島市に置かれました。第2総軍の隷下には第15方面軍(近畿・中国・四国地方を担当)と第16方面軍(九州地方を担当)を置きます。第15方面軍司令部は大阪市、第16方面軍司令部は福岡市に置かれました。

本来外地(戦地)にしか置かない総軍や方面軍

を国内に置くということは、戦局がいかに逼迫していたのかが想像できます。

本土決戦において、敵の空襲により近畿と中国・四国地方が分断される可能性もあるため、昭和20年6月12日には軍令陸甲第95号により、第59軍および中国軍管区・四国軍管区の臨時編成が下命されます。第59軍は、中国地方を担任地域とし第230師団、第231師団、独立混成124旅団を配下に置く作戦部隊で、第15方面軍の隷下に入ります。一方、中国軍管区司令部は広島師管区司令部の権限を引き継ぎ軍政を行う組織で、当面の間、第59軍と中国軍管区の司令官(藤井洋治中将)が兼任する形で、広島城内の広島師管区司令部(元第5師団司令部)の建物に入ります。ただ、司令官は兼任ですが、中国軍管区は各軍管区と同様に大本営の直轄の組織となります。

◆原爆投下から終戦へ

昭和20年8月6日、広島への原爆投下により、広島城内の中国軍管区司令部および第59軍司令部

は壊滅的な被害を受けます。中国軍管区・第59軍司令官の藤井中将は、爆心地にほど近い官舎で家族と共に爆死しました。新たな司令官として谷壽夫中将が8月10日付で任命されますが、8月15日には終戦を迎えました。9月に入ると中国軍管区司令部および第59軍司令部は広島県佐伯郡五日市町(現広島市佐伯区五日市)に移転し、ここで作戦部隊であった第59軍は復員^(※4)します。中国軍管区司令部は引き続き戦後処理を行うため、9月末に広島県安芸郡船越町(現広島市安芸区船越)の日本製鋼所広島製作所内に再度移転し、昭和20年11月末に復員しました。

現在の広島城跡内には、中国軍管区司令部および第59軍司令部の名残りはほとんど見られませんが、中国5県に対して防空警報(警戒警報・空襲警報)の発令および解除を行っていた、半地下式の防空作戦室だけが唯一残されています。現在、安全上内部への立ち入りは禁止となっていますが、貴重な戦跡として1日も早い公開再開が望まれます。

(秋政久裕)



被爆後の中国軍管区司令部1号庁舎跡 昭和20年秋 米軍撮影《広島平和記念資料館所蔵・提供》

- *1 予備役軍人とは、軍隊除隊後、一般社会で生活している者。在郷軍人とも呼ばれる。 *2 隷下に入るとは、部隊編成上、指揮下に入ること。
*3 決号作戦とは、本土防衛の最終作戦。終戦により発動はされていない。 *4 復員とは、戦時体制から平時の体制に戻し、兵員の招集を解除すること。

中国軍管区司令部防空作戦室については、「しろうや! 広島城No.45」で解説しています。

「しろうや! 広島城」のバックナンバーは、
広島城のホームページ(<http://www.rijo-castle.jp>)からダウンロードできます。

<参考文献>

- ・戦史叢書『本土決戦準備(2)』昭和47年 防衛庁防衛研修所戦史部 朝雲新聞社
- ・戦史叢書『陸海軍年表』昭和55年 防衛庁防衛研修所戦史部 朝雲新聞社

歩兵11連隊表門の門柱

現在、広島城南東の内堀外側の公園部分に、歩兵11連隊(被爆時の名称は歩兵第1補充隊)の表門(正門)の門柱が移築されてひっそりと建っています。本来歩兵11連隊の表門はもっと南側、広島翔洋テニスコート(中央庭球場)の辺りにあったものです。戦後、広島市立福木保育園に保存されていたものを“歩十一会”(戦友会)が譲り受けて、昭和59年(1984)に現在の位置に移転建立した旨の銘板もはめこまれています。

しかし、被爆直後の歩兵11連隊の表門の写真を見ると、門柱の形状が現状の物とは異なることに気が付きました。写真で見る限り、歩兵11連隊の表門の門柱の上部は平坦ですが、今の門柱の上部は四角錐で、天頂部には金属部品の残存も見られます。歩兵11連隊には表門以外に、旧表門・南門・裏門と他に3つの門があり、これらの門柱であった可能性も考えられます。ただ旧表門は、写真で見る限り現状の門柱とは明らかに高さが異なっています。南門と裏門の写真(情報)をいろいろ探してみましたが、まだ見つけることができていません。

距離的に歩兵11連隊と近い場所の門柱を比較しながら見てみると、歩兵11連隊の南側にあった広島偕行社(*)の正門の門柱と形状はかなり類似しています。広島偕行社の正門の門柱の上部には電灯も取り付けられていたようで、天頂部に残る金属部品とも合致します。また、門柱横の金属扉のヒンジ金具もよく似た位置に存在しています。

しかし、広島市内にはこれ以外にも多くの門柱は存在しており、偕行社の正門の門柱であったと断定するには根拠資料が不足しています。実際はどこの門柱であったかは、当時を知る関係者の記憶の中だけとなり、今となっては謎のままです。(秋政久裕)

* 偕行社とは陸軍の将校の親睦を目的に全国に作られた組織で、広島偕行社もその1つです。



歩兵11連隊の表門(正門)と
言われるもの(現在)



門柱上部形状



歩兵11連隊(歩兵第1補充隊)の
表門(正門)
昭和20年11月頃 川本俊雄氏撮影
《広島平和記念資料館所蔵・提供》



門柱上部拡大



広島偕行社(外観)
明治末期～大正初期
広島市公文書館所蔵絵葉書
《広島市公文書館提供》



門柱上部拡大

しろうや!
広島城

編集・発行

公益財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町21-1
電話:082-221-7512
FAX:082-221-7519

平成30年12月25日発行

広島城利用案内

開館時間: 9:00~18:00 (12月~2月は9:00~17:00)

※入館の受付は閉館の30分前まで

観覧料: 大人370円(280円)、中学生以下無料
高校生相当・シニア(65歳以上)180円(100円)

※()内は30名以上の団体料金

休館日: 12月29日~31日(臨時休館あり)

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>